

長島文芸

ながしまぶんげい

長島短歌会

道の辺にポキッと手折りし彼岸花深紅の花弁卓をうるほす
 山下タマエ
 眼下のさざ波寄する砂浜に友と遊びし遠き日募る
 浜田美代子
 晩年は子が傍にゐて仕ふると占はれしが今その平和
 瀨畑 松枝
 洗ひきて日を反射せしガラス瓶いまは琥珀の梅酒染しむ
 松元 睦子
 暮れ早く流れ過ぎゆく雲暗し静寂の港薄灯りつく
 岩下 ち江
 中学われは藪に隠ししさつま芋蟻払ひ食みし戦後の下校時
 檜平 頼子
 雨多く光り乏しき秋立ちて病む夫育む粥の湯気たつ
 米尾 和子
 庭隅の雑草に蔓からませて薄紅の昼顔咲けり
 坂之下典子

一般作品

四季なくて赤白黄と咲き誇る九時間飛びて来たれランカへ
 小林 貢
 絵手紙の講師頼まれ会場へ着くや子供等歓声あげる
 小林 如月
 故里の山の香りを忘るると友は送りし初栗の実を
 中飯屋辰子
 供養祭時を畳んでご先祖へ時空を超えて感謝を送る
 後藤ヨシエ
 人間は言ってしまうへば事なのよ後の始末が出来なくなるよ
 町田 末則
 敗戦の投手の嗚咽号泣となりて退場通路響かず
 母木 良平
 何も無しペン一本の狂者暮らし「俳句」
 宗方 正喜

明神俳句会

鳳仙花干されて薄き女下駄
 淵脇 護 暑き夜や柱時計の刻む音 関 佳代美
 接種終へ先づは昼餉の心太
 白男川孝仁 こぼれ種子今年も咲いて千日紅 大堂 早苗
 額縁の父母おはす夏座敷
 山崎加代子 炎天に白き波頭の際立ちて 関 喜久雄
 かなかなや明日の米搗く村はずれ
 二階堂妙子 秋立つや古墳の木々の風の音 坂口 静子
 ため池の水の減りやうつくつくし
 迫口 君代 八月や平和の鐘に手を合わす 二階堂恵子
 母の突くとコロテン待つ幼き日
 大堂 正弘

町立図書館のおすすめ

図書館に置いてある本の中から、おすすめを選びました。バラエティに富んだ本を紹介します。



大切な人は
今もそこにいる

監修：千葉 望

東日本大震災から10年、大災害時代の死について考えたいことを綴ります。



「雨ダルさん」の本

著：佐藤 純

雨が降ると体調不良になってしまう「雨ダルさん」。あなたに合う対処法もあるかもしれません。

町立 指江図書館 ☎ 0996-88-6500

町立 鷹巣図書館 ☎ 0996-86-1111